

露地ギク栽培でのタバコガ類防除のための簡易ネット被覆の普及

奈良県農業総合センター 印田清秀

1. 背景

奈良県は 100 年以上の歴史ある切り花ギクの産地であり、中でも夏秋期の小ギクや二輪ギクの出荷量は全国第 1 位と当県の主要な農産物となっている。

近年、当県のキク産地において、タバコガ類の幼虫によるキク茎頂部の食害被害が多発し、収量や品質の大幅な低下が大きな問題となっていた。生産者は定期的な薬剤散布を実施しても十分な効果が得られず、生産安定、労力負担軽減の両面から薬剤散布以外の有効な防除方法が求められていた。

タバコガ類による被害は全国的にも問題となっており、他県の一部の産地では鉄骨構造の平張りネットハウスが導入され、有効な防除技術であることが示された。しかし、設置コストが高額であることから、産地からは低コストで防除効果が高いネットハウスの開発に強い期待が寄せられていた。

2. 活動の概要

前述の課題を普及（奈良県北部農林振興事務所）から研究につなげ、2005 年より奈良県農業総合センターにおいて、「①生産者自身で設置が可能、②設置経費はネット被覆パイプハウスの半分以下、③日々の管理作業に支障がない施設内空間の確保」を開発目標として低コスト簡易ネットハウスの開発に取り組んだ。2006 年にプロトタイプの現地実証試験を行い、高い防除効果を確認したが、生産者から圃場内の支柱が少ない構造への要望が出されたことから、2007 年により簡単な構造の「超簡易露地ネットハウス」を開発した。

（10a 当たりの設置費用：約 30 万円）

開発後は、農林振興事務所が生産者に対して講習会や設置研修会を開催して導入推進や施工技術の習得を図るとともに、委託施工希望者向けに請負施工体制を整備するなど産地全体への迅速な普及に努めた。



超簡易露地ネットハウス

3. 活動の成果と課題

現地試験を行った結果、慣行圃場の被害率が約 50% の場合でも、ネット被覆圃場では同 10% 以下と被害が大幅に低減し、薬剤散布回数も慣行圃場が 10 回程度のところネット被覆圃場では半分程度にまで削減させることができた。このことから、商品性や収量の向上のみならず、省力化や環境への負荷低減の面でも有効であることを確認することができた。また、薬剤散布回数の削減により土着天敵の活発な活動も観察しており、さらなる減農薬栽培技術としても期待している。現在、超簡易露地ネットハウスは 126 棟（11.4ha）導入されており、キク生産者の経営安定に大きく寄与することができている。

なお、超簡易露地ネットハウスは、耐風強度が不足しているため、台風接近時や強風が予想される場合は防虫ネットを外す必要がある。また、一部の地域では突発的な強風による骨材の変形や防虫ネットの破損といった問題が発生していることから、耐強風性の強化が課題である。